

議事（議長：田村委員長）

1. 報告事項

① 相談業務

1月23日現在 問合せ件数 9件  
(内 相談件数 6件)

・相談者へのフォローに力を入れている

② データ収集

イ) アンケート発送 134団体 回答 40団体

ロ) 団体訪問 8団体・・・聞き取り調査を行っている

ハ) データベースに関しては現在進行中

③ 広報

イ) 専用ホームページの更新（※別紙内容で作成中2月1日更新予定）

○前回推進会議でのご意見を参考にリンク集仕様で作成中  
WEB上でワンストップ窓口となるように。

※推進委員には事前公開して意見ををお願いします。

④ コミュニティビジネス交流サロン報告

開催日：1月17日（金）15:00~17:00

イ) 参加者 10名

※一般2名・行政2名・事務局6名

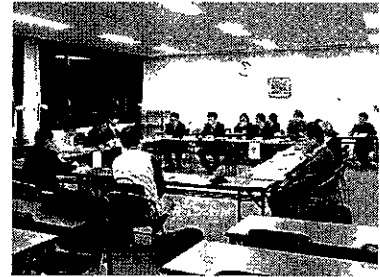
ロ) 内容

○コミュニティビジネス・ワンストップ窓口への相談者の企画プラン  
を全員で検討し、その実現に向けて具体化を進めた。

○ 前回相談者には事務局（若林）が同伴して行政窓口などでの情報収集を実施

○ 相談者からこのような場が必要なのではないかと要望あり

○ もっと進化した形を目指すことも検討（場所等）



2. 検討事項

① コミュニティビジネス講座の詳細検討

イ) カリキュラム内容について

・ 事例発表の団体について（事務局より）

ロ) 広報・募集要領について（事務局より）

<検討>

・ チラシのインパクトが弱い、事例の切り口がポイントか？

・ IT型コミュニティビジネス等、事例や人のキャッチに工夫がいる

- ・ 事例の比重をあげても
- ・ 両面を使ったがよいかも
- ・ ベンチャーや創業でなく違う切り口で。新しい地域産業のイメージ
- ・ どういった層をねらうのか、撒き方とか

② 今後のワンストップ窓口へのご提案

③ 次回開催予定 3月22日(火) 14:00～16:00

※次回は最終回として半年間のまとめをする予定。

#### 第4回CBプロジェクト推進会議

日時：2005年3月22日(火) 14:00～16:00

場所：中央市民センター（中央区赤坂）

出席：田村・丹羽・江藤・赤塚・中川・古川・成田（島田様代理）・植木・大谷  
（委員9名）

長阿彌・若林・久保・肥塚・野口（事務局5名）

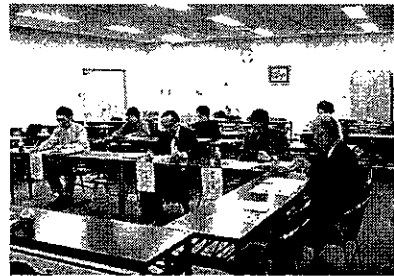
#### 議 事

##### 1. 事業進捗報告（第3回推進会議以降）

###### ① コミュニティビジネス講座（6日間）

→長阿彌より報告、他事務局スタッフ（4名）  
から感想

- ・ 講座は非常に充実していた
- ・ 受講者同士の交流も深まった
- ・ 今後は起業に向けてのフォローも課題



###### 協議内容

- ・ アンケートの分析と活用が重要
- ・ 告知については、割合うまくいった
- ・ 対象者が幅広かったせいで、講義に対する評価が分かれた面があった
- ・ 報告書は今後に向けて非常に重要なので、全体のとらえ方が大切
- ・ 皆勤の方は13名
- ・ アンケートをまとめた結果は推進会議委員へ後日送付

###### ② 電話相談状況

前回以降は10件（合計18件）

→若林より報告

###### 協議内容

- ・ 今回は受身になってしまったことも、件数が伸び悩んだ原因だったのでは。
- ・ NPOに興味を持つ学生は多いので、今後は大学などにも働きかけてはどうか

- ・潜在的な需要を開拓する必要がある

## 2. 今後の予定

- ① 電話相談（3月31日まで継続）
- ② コミュニティビジネス交流サロン  
3月25日（金）15：00～  
・講座修了生も数名参加予定

## 3. コミュニティビジネス・ワンストップ窓口事業について

事務局より今後の取り組みについて説明。各委員から今後の取り組みの方向についての提案、アドバイスなどを出してもらい、今後の展開の参考にする

### 各委員会からのアドバイスや提案

- 専従が一人以上ならビジネスといえるがCBの自覚ない団体は多い
- ニーズの広がりはある、それをどんな風にするか
- 「ワンストップ」という名称は一般にはわかりにくい
- 「相談窓口」は難しい、必要とされている情報の提供がより重要
- 子どもNPOセンター福岡のコンセプトをはっきりさせることが大切
- 報告書に、CBに対する感想なども盛り込んだほうが良い
- 実践事例の中に、答えがある
- CS神戸の例は、見習うところが多い  
※神戸は震災を経験したせいで、先進的な取り組みをしている
- コミュニティバンクなど、全国でのさまざまな取り組みも興味深い
- 福岡県の労働力は全国的には低いレベルなので、これからCBの展開出来る余地は多いのではないか

以上、4回にわたるプロジェクト推進会議の開催は、適切なる助言を得られ、この事業の推進上、大きな役割を果たすことが出来た。これからも、このようなプロジェクトでは第三者の意見や助言を取り入れて推進していくことが必要ではないだろうか。

## 1. - 3. ワーキンググループミーティングの開催

半年間にわたって実施されるコミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業の事務局機能を果たすために、ワーキンググループを編成して施策の立案から実施及びそのまとめまでを行った。

推進会議と連携しながら、きめ細かな活動を実施した結果、コミュニティビジネスの認知の引き上げへ貢献すると同時に、今後のコミュニティビジネスの展開に向けて、様々なデータを収集できた。また、運営的なノウハウもこの中から蓄積することが出来た。

### **【ワーキンググループメンバー構成】**

グループリーダー	長阿彌 幹生	(特)	子どもNPOセンター福岡	専務理事
スタッフ	若林 外志夫	(特)	子どもNPOセンター福岡	理事
	肥塚 美雪	(特)	子どもNPOセンター福岡	理事
	野口 比佐子	(特)	子どもNPOセンター福岡	会員
	久保 博紀	(特)	子どもNPOセンター福岡	事務局員
	中尾 康代	(特)	子どもNPOセンター福岡	ボランティア

### 第1回ワーキンググループ・ミーティング (2004年10月2日)

- 1) コミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業 (略称: CBプロジェクト) の実施についての説明
- 2) 子どもNPOセンター福岡事務局会議 (9/26) での検討内容確認
  - ①推進会議
    - \*第1回推進会議 (予定) 10月22日 18:30-20:30
    - \*メンバー設定 (※委員長の選定必要)
    - \*推進会議の進め方→会議開催形式の検討
  - ②ワーキンググループ
  - ③事務局メンバー
  - ④相談を振り分け先の設定
  - ⑤講座実施 1月~2月 6回シリーズ (1コマ) 半日

### 第2回ワーキンググループ・ミーティング (2004年10月10日)

- 1) 今後の具体的なスケジュール
  - I. コミュニティ・ビジネスの現状分析
  - II. 認知及び相談募集
- 2) 相談者からの情報収集と要望の取りまとめについて

第3回ワーキンググループ・ミーティング（2004年10月11日）

- 1) 進捗状況と今後の具体的なスケジュールについて
- 2) CB 講座の開催についての検討

第4回ワーキンググループ・ミーティング（2004年10月13日）

- 1) 現在の進捗状況における課題とその善後策について
- 2) 資金手当について
- 3) 講座の講師手配とカリキュラム内容について

第5回ワーキンググループ・ミーティング（2004年10月27日）

- 1) 相談受付について
- 2) HP の立上げ→B 社資料を11月1日事務局会議で提案
- 3) チラシ配布先について

第6回ワーキンググループ・ミーティング（2004年11月8日）

- 1) インターンシップの受け入れ状況と作業の進捗状況について
- 2) データベースについては外部委託とする→B 社に依頼して作成
- 3) マスコミプレビュー 来週中に記者会見の予定
- 4) チラシ作成→木曜日11日納品完了→12日労働局へ
- 5) HP 作成について
- 6) 相談受付について

第7回ワーキンググループ・ミーティング（2004年11月15日）

- 1) データベースにおける団体アンケートの内容について
- 2) 推進会議委員の受託状況と会議開催にむけての準備

第8回ワーキンググループ・ミーティング（2004年11月23日）

- 1) データ収集について
- 2) PR について
- 3) 相談受付について
- 4) 推進会議の内容について

第9回ワーキンググループ・ミーティング（2004年11月26日）

- 1) 推進会議について最終確認と準備

第10回ワーキンググループ・ミーティング（2004年12月6日）

- 1) 研修会「コミュニティビジネスについて」

\*CBであるかどうかの判定基準の明確化が課題

第11回ワーキンググループ・ミーティング (2004年12月13日)

- 1) コミュニティビジネス講座について日程及び内容の検討
- 2) データ収集の進捗状況
- 3) 本事業のPRについて
- 4) 相談受付の現在状況について

第12回ワーキンググループ・ミーティング (2004年12月21日)

- 1) CB交流サロン(12/21)(参加者14名)実施後の感想と課題
- 2) 推進会議の内容について

第13回ワーキンググループ・ミーティング (2004年12月24日)

- 1) 推進会議開催について準備と確認

第14回ワーキンググループ・ミーティング (2004年12月27日)

- 1) 推進会議での提案を受けてのCB講座の組み立て再検討
- 2) 相談窓口年末年始の担当者と休業日について

第15回ワーキンググループ・ミーティング (2005年1月7日)

- 1) データベース内容の検討と3月末完成に向けてのスケジュール
- 2) 新HP作成の検討
- 3) CB講座について講師依頼と内容検討

第16回ワーキンググループ・ミーティング (2005年1月17日)

- 1) 相談窓口の問合せ状況(1/7~17)問合せ9件(うち相談6件)
- 2) CB講座カリキュラム案の検討

第17回ワーキンググループ・ミーティング (2005年1月24日)

- 1) 推進会議開催準備と確認

第18回ワーキンググループ・ミーティング (2005年1月25日)

- 1) データ収集について福岡市・福岡県のデータを活用
- 2) CB団体への訪問について
- 3) 広報について

- 4) CB 講座のコンセプト確認と募集チラシ作成について

#### 第19回ワーキンググループ・ミーティング (2005年2月7日)

- 1) 各担当者から現況報告と確認
- 2) CB 講座カリキュラムについて
  - ①入門コース2日目午後「グループ別ワークショップ」の組み立て
  - ②応用コース3日目午後と4日目午後の組み立て

#### 第20回ワーキンググループ・ミーティング (2005年2月14日)

- 1) 進捗状況の確認と検討
- 2) CB 講座の進捗状況と検討課題について

#### 第21回ワーキンググループ・ミーティング (2005年2月22日)

- 1) 新HP 進行状況
- 2) CB 講座について受講生管理と準備物の確認及び作成
- 3) CB 講座の告知と募集
- 4) 交流サロンについて案内文書作成を検討
- 5) 報告書について

#### 第22回ワーキンググループ・ミーティング (2005年2月28日)

- 1) CB 講座オリエンテーションについての確認
- 2) 受講生へのアンケート実施と回収について

#### 第23回ワーキンググループ・ミーティング (2005年3月7日)

- 1) CB 講座 (既終了分) の反省と課題及び今後の対応
- 2) 報告書について担当確認と作成スケジュール
- 3) 推進会議の内容について
- 4) 次回交流サロンの内容について

#### 第24回ワーキンググループ・ミーティング (2005年3月18日)

- 1) 会計処理について
- 2) 講座受講者アンケートの分類まとめについて
- 3) 現在の進行状況
- 4) 4月以降の相談窓口対応について
- 5) SOHO 交流サロンについて報告

### 第25回ワーキンググループ・ミーティング（2005年3月22日）

- 1) 推進会議準備
  - \*今後の指針についての意見をもらう
  - \*CB 講座総括と説明（長阿彌より）
- 2) CB講座について
  - \*アンケートの集計・分析
  - \*今後に向けての取り組み課題の検討
- 3) 現在の進行状況について各担当者より報告

### 第26回ワーキンググループ・ミーティング（2005年3月25日）

- 1) 相談業務の継続検討と今後のフォロー
- 2) コミュニティビジネス交流サロン開催の準備と確認
  - \*行政関係は、地震のため欠席の様子
- 3) 報告書作成業務について担当者より報告
- 4) 今後のスケジュール確認

### 第27回ワーキンググループ・ミーティング（2005年3月30日）

- 1) 相談業務の継続については若林・久保で対応
- 2) 報告書作成業務の進捗状況について報告と内容の検討
- 3) 本事業の会計処理と決算（子どもNPOセンター福岡 事務局）
- 4) 今後のスケジュール確認

以上の27回にわたってのワーキンググループ・ミーティングを開催することで、事業全体を円滑に推進することが可能となった。同時に、各メンバーもコミュニティビジネスに関する知識・技術共に向上し、今後の相談業務への活用が期待出来る。



## 1. ー4. 窓口の設置、普及、募集

コミュニティビジネス・ワンストップ窓口は経費的な観点から、子ども NPO センター福岡の事務所内に設置した。そこでの電話相談や面談などを実施するために、窓口設置の広報活動から開始した。

最初はコミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業の認知というよりも、その前段階のコミュニティビジネスそのものの認知を引き上げていくことから始める必要があった。

コミュニティビジネス・ワンストップ窓口のために以下のような施策を実施した。

### (1) 窓口の設置

コミュニティビジネス・ワンストップ相談窓口を子ども NPO センター福岡事務所内に設置した。面談用スペースの確保及び専用電話（臨時回線）を開設し、訪問相談者及び電話相談者の両方に対応できるようにした。

同時に、コミュニティビジネス相談窓口担当者を期間中（平成16年10月1日～平成17年3月31日）の土日及び祝日を除く10:00～16:00の間配置して、その相談及び対応を実施した。当初、コミュニティビジネスについての全ての相談に対応できる人材の配置を計画していたが、相談内容によって専門性などが必要となるケースはそれぞれの専門家（※プロジェクト推進会議委員の専門家等）に繋げていけるコーディネーター的人材の配置を行った。そのための養成講座なども実施した。

- ① コミュニティビジネス相談窓口を子ども NPO センター福岡事務所内に開設
- ② コミュニティビジネス相談窓口用専用電話を設置
- ③ コミュニティビジネス相談窓口担当者の配置
- ④ 相談窓口担当者の学習会や検討会の実施（ワーキンググループミーティングで検討）

### (2) 窓口設置の認知と相談募集についての広報

#### 1) マスコミレビュー

福岡の主要メディア（新聞社・放送局等20社）に向けて、コミュニティビジネス相談窓口実験事業に関する情報提供を以下のように行い、その紹介記事や紹介放送依頼を実施した。しかしながら、「コミュニティビジネス」の認知度が低く、関心を示すところは少なかった。結果的には西日本新聞社1社のみが取材及び紹介記事を3回に止まった。

その理由は「コミュニティビジネス」という言葉自体があまり認知されていないためにマスコミの反応が鈍かったものと思われる。

【実施策】

- ①コミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業の案内（2回）
- ②コミュニティビジネス交流サロンの開催案内（2回）
- ③コミュニティビジネス講座の開催案内（1回）

【マスコミレビュー（文書例）】

マスコミ関係各位

特定非営利活動法人 子ども NPO センター福岡  
代表理事 大谷 順子

コミュニティ・ビジネス・ワンストップ窓口実験事業のご案内

この度、私たち NPO 法人子ども NPO センター福岡は、厚生労働省が東京と福岡で実験的に行う「コミュニティ・ビジネス・ワンストップ窓口実験事業」の委託を受けることになりました。再就職希望の中高年、定年後の高齢者や若年未就労者、主婦の雇用創出を目的にコミュニティ・ビジネスについての総合相談窓口を行います。

この件につきまして、マスコミ各位へご案内させて頂き、多くの皆様にご紹介していただければ、多くの方々がこの総合窓口をご利用になり、コミュニティビ

お取り上げの程宜しくお願い申し上げます。

■問合せ先：子ども NPO センター福岡（直通電話 090-8625-2984）

---

事業計画概要は以下の通りです

I. 委託事業の目的・内容

- 1 目的 この事業は、雇用創出が期待されるコミュニティ・ビジネスについて、行政手続や雇用管理などに関する相談や、地方公共団体による関連支援サービスの情報提供を一体的に行うことの出来る相談窓口を開設し、コミュニティ・ビジネスの成長促進に向け課題となっている障壁や支援施策の要望についての情報収集、コミュニティ・ビジネスの開業促進及びコミュニティ・ビジネスを通じた雇用創出を図ることを目的とする。
- 2 内容 (1) 資金調達、行政手続、雇用管理などに関する相談  
(2) 地方公共団体等による関連支援サービスの情報提供

- (3) コミュニティ・ビジネスの成長促進に向けて課題となっている規制障壁や支援施策の要望等の情報収集
- (4) 起業・就労を目的とした講座の実施
- (5) 相談・情報提供に関する窓口運営、講座実施のノウハウ、成果のとりまとめ

## II. 委託事業を行う場所

- 1 子どもNPOセンター福岡事務所
- 2 その他（福岡市内に所在する講座実施のための施設等）

## III. 委託事業の実施方法

子どもNPOセンター福岡内に「コミュニティ・ビジネス・ワンストップ窓口実験事業」プロジェクトを発足し、その体制を以下のように組み実施する。

- 1 プロジェクト推進会議（2ヶ月に1回開催され、目的達成に向けての検討と決定の機能をもつ。
  - (1) 専門家、学識経験者、コミュニティ・ビジネス事業者、行政関係者を含めて構成する
  - (2) プロジェクト推進委員長1名と推進委員9名の10名で構成
- 2 ワークキンググループMT（毎月3回開催・推進会議で決定された業務を実際に行うための検討機能をもつ。）
  - (1) リーダー（1名）とワーキングメンバー（5名）

## IV. 委託事業実施期間 平成16年10月1日から平成17年3月31日まで 以上

## 2) インターネットでの情報発信

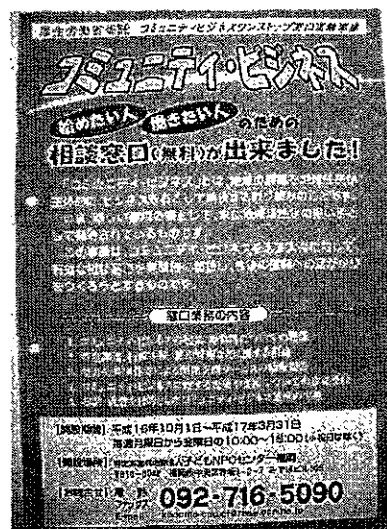
コミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業についての専用ホームページを開設して情報提供や相談利用促進をPRした。ホームページ作成に関しては、専門業者に依頼し、検索の際にも上位ランキングになるようにセッティングし、閲覧の機会向上を図った。同時に、内容も基礎的な情報にし、詳細については相談窓口に繋がるように設計した。また、子どもNPOセンター福岡や関連NPO団体のホームページともリンクして情報発信先の拡大を実施した。

- ① コミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業専用ホームページの開設
- ② 子どもNPOセンター福岡など関連団体のホームページともリンク
- ③ 他のコミュニティビジネス団体のホームページへリンク要請
- ④ 福岡県及び福岡市のコミュニティビジネス関連の行政窓口のホームページとリンク

### 3) 広報チラシによる PR 及び相談募集

コミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業についての認知を高めるために、公共の場所における告知手段として、コミュニティビジネス・ワンストップ窓口実験事業についてのチラシを5000枚作成し、以下の場所に交渉し配置した。

- ①福岡県内のハローワーク
- ②福岡県関係の出先機関
- ③福岡市関係の施設（市民センター等）
- ④その他協力的な団体



### 4) 福岡県広報誌による PR 及び相談募集

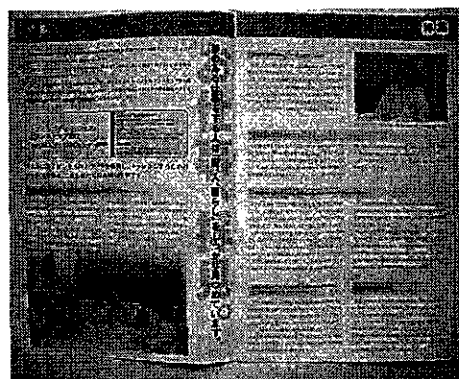
福岡県生活労働部労働局新雇用開発課がコミュニティビジネスの普及のために発行している「まち COM 通信」の第7号に今回のワンストップ窓口実験事業が特集され広報された。この号以降、コミュニティビジネス相談窓口から取材対象者を紹介して、成功事例や検討事例も掲載してもらい、起業や就業希望者の参考にしてもらっている。

※「まち COM 通信」：県内の県関係窓口、ハローワークなどで5000部配布



「まち COM 通信」

※相談窓口特集号



※相談窓口特集号の紹介ページ

## 1. - 5. ネットワーク整備

コミュニティビジネスについてのネットワークづくりを行い、情報交換などを円滑に出来る環境の整備に取り組んだ。これに関しては、データベースづくりと重なっている部分が多く、実際データベース作成の際のアンケートにも、今後のネットワークへの参加希望の有無などを掲載し要望を募った。

その結果、ネットワーク参加への回答がほとんどであった。ネットワークへの要望は強く、情報提供を望んでいることが分かった。しかしながら、コミュニティビジネスに関しての情報提供については、すでに福岡県や福岡市などがホームページなどを開設し実施しているので、情報提供という観点からすると、すでに整備されているとも言える。今回の事業では、今までに無いネットワーク機能について検討する中で、以下の施策を行った。

### (1) アンケート等によるネットワーク参加希望を収集

- 1) コミュニティビジネス関係団体へアンケートを実施  
有効回答数 40団体中 ネットワーク参加希望 35団体
- 2) 訪問や電話、面談などで収集したネットワークへの意見
  - ①最新の情報を提供して欲しい
  - ②他の団体の取組みなどを紹介。特にサクセス事例の紹介。
  - ③助成金や支援制度などの情報
  - ④情報交換など交流の場の開設・運営
  - ⑤コミュニティビジネスについての知識や技術を修得する場の開設・運営

### (2) コミュニティビジネス・ワンストップ窓口のホームページ開設

ホームページを開設して、ウェブ上でのネットワーク形成を以下の点で図った。

- 1) コミュニティビジネス関係団体とのリンク形成
- 2) 行政関係とのリンク形成
- 3) NPO 団体とのリンク形成
- 4) アンケートで希望した団体とのリンク形成
- 5) 今回の相談業務などで、個人情報などを除いて有用な情報をホームページで紹介した。

### (3) コミュニティビジネス交流サロンの開設

コミュニティビジネス相談窓口に来られたり、問合せのあった団体や個人を対象にして、子ども NPO センター福岡の事務所に、「コミュニティビジネス交流サロン」